

2. 事業の目的と概要																																																																																														
(1) 上位目標	「土のう」による道直し技術を使った生活社会基盤（未舗装道路）を、住民自らが整備または維持管理するような技術移転活動を通して、生活改善に向けた住民活動が活性化し収入、生活レベルが向上する。																																																																																													
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>農村部では雨期になると未舗装道路が泥沼化し、農作物の運搬車輛の通行が妨げられ農作物の販売が出来ない事が貧困に拍車をかけている。また市街地でも、雨水や生活排水が道に滞り通行を妨げ、衛生面の悪化等多くの問題を引き起こしている。行政側の予算不足や不適切な管理方法（道路路面を締め固めず排水を考慮せずに重機で均す方法）などの理由から、未舗装道路の改善には至っていない。</p> <p>昨年度までの本事業の成果から、「土のう工法」がケニア政府に正式に道路維持管理方法として採択された(別添、参考資料7)。また、ケニア運輸・インフラ省は、本事業で研修を受けたグループがコントラクター資格（道路工事請負業者として必要な道路建設に関わる基本技術の習得）取得に向けた同省実施の講習参加費用の拠出等の協力を受けられる見込みである。本事業で技術を習得した参加者が、地方行政から事業を請け負い、住民と行政が連携した「土のう工法」の継続的な実施を目指す。今後、道路行政の地方分権化が一層進むことを考慮し、各カウンティとも連携し本事業を実施する。</p>																																																																																													
(3) 事業内容	<p><b>活動1 農民組織の支援を通じた「土のう工法」による道直しの実施</b></p> <p>1-1 ウアシンギシュ農村開発アソシエーション：URDA（※2 及び参考資料2 参照）の定期役員会および、関係機関を交えたワークショップを開催し、コントラクターとしての運営管理能力をさらに強化する。代表者を現場監督として道直し研修に派遣し、現場施工管理能力を強化する。</p> <p>1-2 簡易施工計画書(見積もり)作成技術、現場監督技術、事業申請書作成技術の習得をカリキュラムに含んだ道直し研修（11グループ、実際の道直し施工期間5日間、参考資料3）を実施する。</p> <p>表2 農民組織に対する経験者向け研修実施予定のグループ（ウアシンギシュカウンティ）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>No</th> <th>活動予定地(郡)</th> <th>グループ名</th> <th>人数</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">エルドレットウ エスト県</td> <td>1</td> <td>ソイ</td> <td>エベソII</td> <td>25</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>タルボ</td> <td>エウエロフルマ</td> <td>25</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">エルドレットイ ースト県</td> <td>3</td> <td>アイナブコイ</td> <td>フォーエバーユース</td> <td>25</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>フロントライン</td> <td>25</td> <td>市街地</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>モイベン</td> <td>フォディアムーブメント</td> <td>25</td> <td>市街地</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">ワーレン県</td> <td>6</td> <td rowspan="3">ケセス</td> <td>レヘマセルフヘルプ</td> <td>25</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>チェプティレットユース</td> <td>25</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>オルゲチャップセルフヘルプ</td> <td>25</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td>チョヤットユース</td> <td>25</td> <td>市街地</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td rowspan="2">カプセレット</td> <td>キプカレン</td> <td>25</td> <td>市街地</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ムワトシャユース</td> <td>25</td> <td>市街地</td> </tr> <tr> <td colspan="4">合計</td> <td>275</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><b>活動2 生産組合に対して行う「土のう工法」による道直しの推進</b></p> <p>ケニアコーヒー公社等の7つの組合組織（表3）に対し、生産工場と主要国道をつなぐ農村道路等での「土のう工法」を用いた道直し研修（8グループ、道直し施工期間8日間、参考資料3）を行う。</p> <p>表3 支援予定の組合組織一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">活動予定地</th> <th>No</th> <th>組合名</th> <th>実施数</th> <th>対象人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ムランガカウンティ</td> <td rowspan="2">ガタンガ県</td> <td>1</td> <td>キノゲラマコーヒー組合</td> <td>1</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>テカゲティコーヒー組合</td> <td>1</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">キアンブカウンティ</td> <td rowspan="2">ラリ県</td> <td>3</td> <td>カグエティ紅茶会社</td> <td>1</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ガタマユ乳業組合</td> <td>1</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>		No	活動予定地(郡)	グループ名	人数		エルドレットウ エスト県	1	ソイ	エベソII	25	農村部	2	タルボ	エウエロフルマ	25	農村部	エルドレットイ ースト県	3	アイナブコイ	フォーエバーユース	25	農村部	4		フロントライン	25	市街地	5	モイベン	フォディアムーブメント	25	市街地	ワーレン県	6	ケセス	レヘマセルフヘルプ	25	農村部	7	チェプティレットユース	25	農村部	8	オルゲチャップセルフヘルプ	25	農村部	9		チョヤットユース	25	市街地	10	カプセレット	キプカレン	25	市街地	11	ムワトシャユース	25	市街地	合計				275		活動予定地		No	組合名	実施数	対象人数	ムランガカウンティ	ガタンガ県	1	キノゲラマコーヒー組合	1	25	2	テカゲティコーヒー組合	1	25	キアンブカウンティ	ラリ県	3	カグエティ紅茶会社	1	25	4	ガタマユ乳業組合	1	25
	No	活動予定地(郡)	グループ名	人数																																																																																										
エルドレットウ エスト県	1	ソイ	エベソII	25	農村部																																																																																									
	2	タルボ	エウエロフルマ	25	農村部																																																																																									
エルドレットイ ースト県	3	アイナブコイ	フォーエバーユース	25	農村部																																																																																									
	4		フロントライン	25	市街地																																																																																									
	5	モイベン	フォディアムーブメント	25	市街地																																																																																									
ワーレン県	6	ケセス	レヘマセルフヘルプ	25	農村部																																																																																									
	7		チェプティレットユース	25	農村部																																																																																									
	8		オルゲチャップセルフヘルプ	25	農村部																																																																																									
	9		チョヤットユース	25	市街地																																																																																									
	10	カプセレット	キプカレン	25	市街地																																																																																									
	11		ムワトシャユース	25	市街地																																																																																									
合計				275																																																																																										
活動予定地		No	組合名	実施数	対象人数																																																																																									
ムランガカウンティ	ガタンガ県	1	キノゲラマコーヒー組合	1	25																																																																																									
		2	テカゲティコーヒー組合	1	25																																																																																									
キアンブカウンティ	ラリ県	3	カグエティ紅茶会社	1	25																																																																																									
		4	ガタマユ乳業組合	1	25																																																																																									

	ギツウングリ県	5,6	コモタイ コーヒー組合	2	50
		7	ギティツ コーヒー組合	1	25
	キアンブ-ウエスト県	8	キアンバー コーヒー組合	1	25
	合計			8	200

**活動3 若者グループに対して行う雇用創出と自立支援に向けた道直しの実施**

地域の若者グループに対し、国道に続く小規模な市街地での「土のう工法」を用いた道直し研修（16グループ、道直し施工期間8日間、参考資料3）を行う。※今年新たに事業を開始する地域のため、広報用看板10枚を設置する。

表4 活動3での事業実施予定地と各カウンティの協力内容

州	カウンティ	カウンティの協力内容	実施数	対象人数
リフトバレー州	バリンゴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料の一部拠出見込み</li> <li>対象グループに将来の事業請負を計画中</li> </ul>	4	合計 16グループ×25名= 400人
	エルゲヨマラクエット	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の施工方法として議会で採択</li> </ul>	4	
セントラル州	キリニャガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料の一部拠出見込み</li> </ul>	4	
イースタン州	タラカニティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料の一部拠出見込み</li> <li>対象グループに将来の事業請負を計画中</li> </ul>	4	
	合計		16	400

**活動4 コントラクター資格取得のための講習への参加**

アソシエーション代表者（活動1）、生産組合グループの代表者（活動2）、若者グループ代表者（活動3）がコントラクター養成のための講習を受講する。（講習費用は運輸・インフラ省の拠出（見込み）、交通費等は本NGOおよびグループの負担とする。）

**活動5 「土のう」工法の普及と実演セミナー開催（ナイロビ）**

ケニア政府からの予算の拠出を促す目的や他の開発NGO等に「土のう工法」を活用してもらうため、デモンストレーションを含んだセミナー（参考資料5）を行う。

(4) 持続発展性

「土のう工法」はすべて現地の材料を使い施工を可能にする技術であるが、これまで、持続的な道直しに必要な土の運搬費、材料購入費などの実施経費の調達が課題であった。継続的な道直しに必要なことは、技術を習得したグループが、地方行政が公募する公的な事業等に定期的に参入することである。支援したグループが「土のう工法」を用い小規模な会社組織として活動していく事で、道直しに必要な実施経費の負担がなくなり、同時に雇用が創出されることで住民による道直しの持続発展性が見込める。

(5) 期待される成果と成果を測る指標

表5 活動ごとに期待される成果と指標

期待される成果（事業目標）	成果を図る指標および確認方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>URDAのメンバー、生産組合の組合員、若者グループが、「土のう工法」を習得し、道路補修が行われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動1：道路補修距離(1.1km以上:100m×11グループ)</li> <li>活動2：道路補修距離(1.60Km以上:200m×8グループ)</li> <li>活動3：道路補修距離(3.20Km以上:200m×16グループ)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者がコントラクター登録のための講習に参加し、コントラクターとして登録がなされる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コントラクターとしての登録者数</li> <li>申請、または請け負った事業の数</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>政府関係機関、NGO等の他の機関が「土のう工法」を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「土のう工法」を使った具体的な道路補修が計画され、予算化される。</li> </ul>

本事業を通じた直接裨益者数：875人（トレーニング対象者）  
間接裨益者数：35ヶ所×周辺住民2千人=7万人